

2023年12月10日

「救い主と出会って」

ヨハネによる福音書 1:19-28

竹島 敏牧師

祭司ザカリアの息子、ヨハネはユダヤの荒れ野で預言者エリヤを彷彿させる姿でユダヤ人たちに改心を強く説き、神の国は近づいたと神の審判が差し迫っていることを教え、ファリサイ派やサドカイ派の人々をも含む大勢の人々に悔い改めの洗礼を授けていました。ローマに支配されていたヘロデ王の時代、ユダヤ社会の民衆からはメシア・救い主の出現が待ち望まれ、支配者たちからは恐れられていたという状況がありました。「あなたはどなたですか」というエルサレムから遣わされてきた祭司やレビ人たちの問いに対して、ヨハネは「自分はメシアでもエリヤでも預言者でもない」と、まず相手が期待、あるいは懸念していることを否定します。そして、「ではだれなのか」という問いに「声だ」と応答します。預言者イザヤの言う、主の道を真っ直ぐにせよと荒野で叫ぶ者の「声」であると。ここに洗礼者ヨハネと呼ばれる者に神が与えた「使命」を見ることができます。人々に悔い改めの洗礼を授け、救い主と人々が出会う準備の役目に徹する歩みをするというものです。そして洗礼者ヨハネは、救い主はすでに人々のなかに立っておられることを告げ、その翌日にナザレのイエス、救い主イエスを見出したのでした。

キリスト者は、神がこの世に賜いし独り子イエスを救い主として信じた者たちです。そして欠け多く繰り返し間違え、繰り返し悔い改める必要のある者たちです。独り子のご降誕を待ち望むこの日々にふさわしい備えができますよう、父なる神によって、私たちの心が動かされ救い主のために道を整えられるよう、励ましていただきたいと思います。